

なし黒星病の発生に注意しましょう！

巡回調査の結果、県中南部でのなし黒星病の発生ほ場率が60～71%、発生葉率が0.8～3.1%と高くなっています（表1、図1）。気象予報によると、向こう1ヶ月は平年と同様に曇りや雨が多い見込みで、今後の発生増加が予想されます。

特に、幸水は果実肥大後期の7月上旬から黒星病の感受性が高くなるので、降雨が頻繁で果実での発生が予想される場合には、わずかの晴れ間、または小雨でも薬剤散布を実施しましょう。

表1 発生状況(6/11・12 現在調査)

	発生ほ場率 (%)	発生葉率 (%)
県北	1.4	0.2
県中	6.0	0.8
県南	7.1	3.1
県全体	5.2	1.2
過去10年の の平均値	2.8	0.5



図1 なし黒星病発生状況

発生葉率：x 0%、 0.1～5%、
5.1～15%、 15.1%以上

【防除対策】

- (1) 発病した果そう基部、葉、果実は二次伝染源になるため、見つけ次第ほ場外に持ち出し、埋設等処分を行う。
- (2) 現在、葉に発病が多いほ場では、治療効果の期待できるストロビードライフロアブル等を6月中旬から7月中旬に追加して散布する（表2）。
- (3) 黒星病は感染後、発病までに15日程度の潜伏期間があるため、現在発病した葉や果実が見つからなくても、常になしを観察し、発生があった場合は初期防除を徹底する。

表2 なし黒星病に登録のある主な防除薬剤（6月中旬～7月中旬）

薬 剤 名	希 釈 倍 数	使用時期 / 使用回数
ストロビードライフロアブル	3,000倍	収穫前日まで / 3回以内
ナリアWDG	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内
ベルコートフロアブル	1,500倍	収穫14日前まで / 4回以内
オキシラン水和剤	500～600倍	収穫7日前まで / 9回以内
キノンドーフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで / 9回以内

注1) オキシラン水和剤とキノンドーフロアブルは有効成分として有機銅を含むため両薬剤の使用回数はあわせて9回以内とする。

注2) 薬剤散布に当たっては周囲への飛散（ドリフト）に十分注意する。

注3) 平成21年6月10日現在の農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報に基づいて作成しています。

詳しくは、農業環境指導センターまでお問い合わせください。

TEL 028-626-3086

<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>

